

エジプトのシーシーはエネルギーの苦悩から抜け出せるか

マギー・フィック

カイロ 2014年2月18日 午前5:29



エジプト軍総司令官兼陸軍元帥アブド・ファッターフ・シーシーが、ロシアのブラジミール・プーチン大統領との会談でモスクワ郊外ノボ・オガリョボの官邸に到着。2014年2月13日。

(ロイター) - エジプトの軍総司令官兼陸軍元帥であるアブド・ファッターフ・シーシーは、ムスリム同胞団を粉砕したことにより幅広い人気を獲得したが、支持者たちから無敵を見られている人物であるとはいえ、政治的に微妙な位置にあるエネルギーの分野における混乱を正すことはできないかもしれない。

7月にイスラム指導者ムハンマド・モルシーを倒してエジプトへ平穏をもたらすと誓ったシーシーは、数カ月中に実施される大統領選挙において勝利を飾ると見られている。

最初の大きな試練は、停電と燃料不足になるだろう。—モルシーを苦しめ、反対派集団に拍車をかけ、軍による追放を可能にした問題と同じである。

「シーシーの人気は依然としてとても高いが、彼自身、約束通りの効果的な政権運営で

ないと見られれば、明日にでも国民がタフリール広場に集まるだろうということは、認識している」と、オックスフォード大学の中東エネルギー専門ジャスティン・ダージンは語った。

カイロのタフリールは、2011年にフスニー・ムバーラク大統領による30年間の独裁政権を終わらせた抗議活動の拠点であった。

多くのエジプト人にとってシーシーは非常に強力だが、業界の専門家、外国の石油・ガス会社や、欧米の外交官は、シーシーがこのエジプトの悪夢とも言える課題に対して大胆な行動を取ることができるのか、疑問視している。

歴代の大統領は、爆発的な人口増加が燃料需要を押し上げたにもかかわらず、大きな天然ガス田を開発するための健全な戦略を立てられなかった。

エジプトのガス輸出は 2000 年代半ばに始まったが、2008 年から 2012 年の間に半分以下に減少した。現在はごくわずかになるまでに減速しており、世界的な液体化天然ガス（LNG）供給の減少に寄与している。

成熟ガス田からの生産は、減少している。政府は、7 月に始まった今年度において初めて、今月の消費が生産を上回ると予測している。

軍により据えられた政府は、苦境に陥っている。

湾岸アラブ諸国は、サウジアラビア、クウェート、アラブ首長国連邦からの 40 億ドルの石油製品を含む支援を行ったが、これらの国々のディーゼル油はエジプトのガス系発電所や大規模工場と互換性が無い。

どこへも頼れない

カタールは、モルシー統治時に余剰ガスによりエジプトを救済したが、追放によりカイロとの関係がこじれた。暫定政権は、その前身

と同様、LNGを直輸入する手だてを確保できないでいるため、エジプトは、ガスに関してどこへも頼ることができない。

フローティング LNG 輸入ターミナルの入札は、10月から保留になっている。例え入札が行われたとしても、専門家らによると、カタールが昨年エジプトに対して提示した有利な交換取引に匹敵するものは何もないだろうとのことだ。

「我々は、十分な生産能力を持つ設備を設置したが、問題は燃料にある。」と、エジプト電気省広報のアクタム・アブド・ラーは話した。「発電所をディーゼルで稼働させるのは良くない。」

エジプトのエネルギー諸問題は、国の予算の5分の1を占める年間15ドルが費やされている燃料支援に根ざしている。この資金のために、エジプトのガソリン小売価格は市場価値よりもはるかに低く保たれており、国民に消費抑制の意識が芽生えない。

燃料の助成は、50年前の社会主義の大統領  
ガマル・アブド・ナーシルの時代から実施  
されており、このために、本来であれば国外  
のエネルギー会社に対して債務を返済し、投  
資奨励のために支払い条件を向上させるた  
めに使用できたはずの外資が、無駄になっ  
ている。

どのエジプトの大臣に尋ねても、助成の改革  
が必要だと答えるだろう。しかしながら、ア  
ラブで最も多くの人口を抱える国にとって、  
燃料は、食糧と並ぶ、一触即発の問題である。  
1977には、パン助成の削減が、アヌワル・  
サーダート大統領に対する暴動を引き起こ  
した。

2011年以來、民衆の力が二人の大統領を倒  
している。

他の大統領同様、シーシーも、燃料に対する  
需要が高まる暑い夏の数か月間を切り抜ける  
ための応急処置的対策を取るかもしれない。  
—もっとも、今や冬においてさえも停電

が起きているが。恐らく政府は、停電に対する国民の怒りを恐れ、エネルギーを大量消費するセメントや鉄鋼の工場のガス原料を削減することだろう。

「状況は、生き残りがかかったある種の脅迫だ。」ダージンは述べた。シーシーは、国際的な誓約を破ることになっても、高額のコストがかかる現在の状況を維持するだろう、と予測している。

近年、電力使用のピーク時に生産量を落とすことを強いられてきた各企業は、「エジプトに長期間とどまることが割に合うのかを検討しなければならなくなる」だろう、と述べた。

業界の専門家たちは、シーシーは、BG社などの外国企業との契約を破り、輸出するとしていたガスを、国内の需要を満たすために転用し続けるだろう、とも予測する。

エジプトでの BG 社の問題は、同社の LNG 班に大きく響き、先月業績の下方修正が行われた。BG 社は、エジプトにおける政治的混乱を非難しつつその年の生産見込み量を減らし、影響の出る販売先や貸し主に対して「不可抗力による出荷不履行」を通知した。

供給不足

ウッドマッケンジー社のマーティン・マーフィーによると、今年初め以来、エジプトは、パイプラインの容量制約に基づいて、BG 社とそのマレーシアの提携先ペトロナスにより生産された最大量の天然ガスを流用しているとのこと。

「政府は、供給の大部分を占める発電の確保を最優先に取り組み、この分野の不足分を最小限にとどめるよう努めるだろう。」マーフィーは言った。

「業界は、供給不足の影響をまともに受けるだろう。」

各企業は、今後の輸出量の保証を得られない限り、新たな開発を押し進めないだろう。

エジプト国民は、シーシーによる奇跡を期待している。外国企業は、シーシーのエネルギー分野における改革に対する意欲の兆候を探るだろう。

大きな賭けである。

エジプト政府が、埋蔵ガスを開拓するよう各企業を説得できなければ、エネルギー輸入にさらに投資が必要になり、小麦と同じジレンマが発生するだろう。

エジプトは、世界最大の小麦輸入国だが、これは、非効率と腐敗がナイル川沿いの農業をむしばんでいるためである。

エジプト石油大臣のシャリーフ・イスマーイルは、増え続けるエネルギー需要を国内の資源で賄えるようになることを望んでいるが、政府は輸入に頼らざるを得なくなることを認めている。

エジプトが、外資企業によるガス生産を阻んでいる諸問題に対処するまでは、「ガスであれ、原油であれ、全てのエネルギー需要を輸入で賄わなくてはならなくなるだろう」と、先週ロイターに話した。

国内での燃料価格を操作して低く抑えたまま輸入に頼っているのは、エジプトの財政向上の見通しは立たない。湾岸諸国の援助により、外国の埋蔵ガスの開拓は進んでいるが、2011年より前の半分の水準でしかない。そのため、政府の燃料購入範囲は限られている。

外国企業は、LNG輸出が今夏全面的に停止したことにより、ますます様子を見る姿勢に入っており、その状況でのエネルギー輸入は、外国企業にとって抑制の目安になるであろう、とロンドンにあるRBCキャピタルマーケットのアナリスト、ペーター・フットンは述べた。

ペーター・フットンは、エジプトは、LNGを輸入できないことを考えると、悪循環に閉

じ込められた、と表現した。「ガスを取り込めなければ、厳しい選択を迫られるだろう。手っ取り早いのは、輸出しないことだ。」